

平成 30 年度  
福島県 大学生の力を活用した集落復興支援事業

## 田村市船引町瀬川地区実証実験報告書

獨協大学地域活性化プロジェクト米山チーム

指導教員 経済学部国際環境経済学科 米山 昌幸

<b>[目次]</b>	ページ
1. はじめに.....	2
2. 田村市船引町瀬川地区の概要.....	5
3. 瀬川地区の現状と問題点・取り組むべき課題.....	6
3.1. 瀬川地区の人口減少と少子高齢化.....	6
3.2. 地域活性化支援団体の地域活性化の取り組み.....	10
3.3. 今年度の取り組むべき課題と企画提案.....	11
4. 今年度の実証実験とその評価.....	11
4.1. 「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」開催準備と運営.....	12
4.2. 「マルシェ木箱を製作する木工ワークショップ」開催.....	16
4.3. コミュニティカフェ「喫茶セガワ」の開設.....	22
4.4. 獨協大学における瀬川地区の物産展開催～Earth Week Dokkyo2018～.....	27
4.5. 実施した実証実験の評価と次年度にむけた展望.....	29
5. 今年度実施した実態調査と課題設定.....	30
5.1. 瀬川地区 4 行政区の神社と伝統芸能.....	30
5.2. 移ヶ岳の自然資源.....	38
5.3. エゴマ農家の現状とエゴマの今後の可能性.....	40
6. 次年度以降に向けた企画提案.....	41
6.1. 「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の継続開催と定例化に関する提案.....	41
6.2. 獨協大学における物産展開催に関する新たな提案.....	42
6.3. 瀬川住民センター裏の空き地(市の所有地)と隣接する空き家の有効活用に関する提案.....	43
6.4. エゴマの収穫時期の援農ボランティアの提案.....	44
6.5. 大学もしくは草加市における「そば打ち同好会」結成の提案.....	45
6.6. 瀬川地区の伝統芸能活性化のための広報に関する提案.....	46
6.7. 移ヶ岳の小水力発電の可能性調査とエコツーリズムに関する提案.....	49
6.8. 田村市全域との広域連携を視野に入れた提案.....	50
7. おわりに.....	50

## 1. はじめに

昨年度 2017 年度、獨協大学地域活性プロジェクト米山チームは福島県が募集する「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に初めて参加し、田村市船引町瀬川地区を担当している。1 年目には実態調査を行って、地域が抱える問題を明らかにして、そこから課題を抽出し、企画提案を報告書にまとめた。2 年目の 2018 年度は昨年度に報告書にまとめた企画提案のうち、地域住民と協議して実施に移せるものについて実証実験を行った。

田村市船引町瀬川地区を担当する 2018 年度米山チームには、5 学科 10 人の学生(英語学科 1 名、国際環境経済学科 2 名、法律学科 3 名、国際関係法学科 2 名、総合政策学科 2 名)が参加してくれた。メンバーは代表:池井遥香(国際関係法学科 4 年)、副代表:吉田智晶(総合政策学科 2 年)、石原蓮(英語学科 3 年)、大嶺輝(法律学科 3 年)、広沢駿(同学科 3 年)、前田泰良(同学科 3 年)、坂本拓海(国際関係法学科 3 年)、溝井彩乃(国際環境経済学科 2 年)、荻野佑貴(総合政策学科 2 年)、田波萌々香(国際環境経済学科 1 年)であり、継続メンバーは吉田智晶のみであった。

米山チームは、9 月 29 日(土)・30 日(日)実態調査と打ち合わせ、11 月 10 日(土)・11 日(日)に実証実験を行った。9 月の現地訪問では瀬川地区代表区長の松本春治氏、田村市地域づくり推進員の佐々木正和氏に同行していただき、図表 1 の行程表のとおり実態調査も実施した。

9 月 29 日午前中にはやってみっ会主催のそば打ち勉強会に石原、大嶺、前田の 3 名が参加し、そば打ちの指導を受けた。午後からは、11 月 11 日に開催予定の「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」と、その前日に予定しているマルシェで使用するためのマルシェ木箱を製作するための「木工ワークショップ」について、瀬川住民センターで綿密な打ち合わせを行った。午後には、瀬川地区はエゴマ油の原料であるエゴマの発祥の地として有名であるが、エゴマを栽培する橋本公一氏のエゴマ畑を視察した。瀬川地区にエゴマ生産者は現在、15 軒ある。昨年度には、瀬川住民センターに隣接するエゴマ油の搾油所で、橋本公一氏・恵子氏ご夫妻にエゴマの搾油について解説していただいた。翌 30 日には、瀬川住民センター裏の空き地を視察し、その有効利用について考える機会をいただいた。また、翌日は移ヶ岳の視察や樽井俊二氏が塾長を務める「里山林・自然塾」も訪問し、小水力発電やエコツアーリズム実現可能性について検討した。また、瀬川地区の 4 行政区にある神社の視察を行い、神楽殿を備えているのを目の当たりにして、そこで舞が舞われている伝統文化・民族芸能が今もなお息づいていることを感じる事ができた。一方、伝統のある立派な神社であるにもかかわらず、市の予算から修繕費が出ないということで壊れたままになっている神社もあった。屋根の整備などは行われているところもあったが、地元民や観光客を誘致するには、さらに整備は必要になってくるだろう。

9 月の現地訪問では、11 月 11 日の企画運営に関する詳細な打ち合わせができただけで

なく、次年度に向けた新たな協力事業の実現可能性に向けて検討する良い機会となった。ただ、当初帰りの高速バスは郡山駅 18:15 発～新越谷駅西口 21:45 着のあだたら号を予約していたが、台風 24 号の接近のため、昼食も摂る時間を惜しんで視察スケジュールを早目に進めて、1 本早い高速バスに変更して帰路についた。

図表 1 実態調査行程表

時程	行程
9 月 29 日(土) 6:38～7:30	東北新幹線つばさ 121 号(新庄行) 大宮→郡山
8:00～8:26	JR 磐越東線(いわき行) 郡山→船引
9:00～12:00	やってみっ会主催「そば打ち勉強会」体験
13:00～14:00	11/11(日)主催「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」と「木工ワークショップ」の打ち合わせ
14:00～15:00	エゴマ畑視察
16:00～	交流会 宿泊先：橋本公一氏・恵子氏宅、佐々木正和氏宅
9 月 30 日(日) 8:00～8:30	橋本氏・佐々木氏宅にて朝食
9:00	出発
9:30～10:30	瀬川住民センター裏の空き地を視察
11:00～14:00	移ヶ岳を視察、里山林・自然塾塾長の樽井俊二氏を訪問：小水力発電やエコツアーリズム実現可能性について検討 鹿島・熊野神社(石沢)、日渡神社(新館)、新館神社(新館)、大倉神社(大倉)、古室神社と王子神社を視察
14:21～14:48	車(門鹿)で船引駅まで送迎 JR 磐越東線(郡山行)
15:15～18:45	船引→郡山 高速バス あだたら号 郡山駅→新越谷駅西口 *当初高速バスは郡山駅 18:15～新越谷駅西口 21:45 のあだたら号を予約していたが、台風 24 号の接近のため 1 本早い高速バスに変更して帰路についた。

また、図表 2 の実証実験行程表により、11 月 10・11 日には瀬川住民センターにおいて実証実験を実施した。11 月 10 日、瀬川住民センターに到着後、翌 11 日開催の「第 1 回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の準備の進捗状況について打ち合わせを行い、運営スタッフ間で情報を共有し、各自の役割分担を決めた。米山チームのメンバーは「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の開催運営に協力するだけでなく、マルシェ木箱を製作する「木工ワークショップ」の運営スタッフとして、そしてコミュニティカフェ「喫茶セガワ」を運営するスタッフとしても協力した。開催当日 11 日には、担当ごとに分かれ開催に向けた最終確認を行ったのち、準備にとりかかった。「第 1 回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」には、大勢の地域



住民の方が来場し、秋の一日を瀬川住民センターに集まって、歓談して過ごし、地域住民の交流の場としてにぎやかなイベントとなった。また、本田仁一田村市市長も長い時間、会場に留まっていたでいて、新そばを堪能され、マルシェで買い物をされ、木工ワークショップにもご参加いただくことができた。今後、空き家のリノベーションなど市にもご協力いただきながら、新たな展開も期待することができた。

図表 2 実証実験行程表

時程	行程
11月10日(土)	
5:34～ 5:39	東武スカイツリーライン (北越谷行) 獨協大学前→新越谷
5:52～ 6:03	JR 武蔵野線 (府中本町行) 南越谷→南浦和
6:17～ 6:28	JR 京浜東北線 (大宮行) 南浦和→大宮
6:38～ 7:30	東北新幹線 つばさ 121号(新庄行) 大宮→郡山
8:00～ 8:26	JR 磐越東線(いわき行) 郡山→船引：船引駅にて佐々木さん・松本代表区長と合流
9:00～12:00	ミーティング。終わり次第瀬川住民センターにテント張り
12:00～13:00	昼食
13:00～15:00	木工ワークショップ開催、そば、カフェ準備
17:00～18:00	軽トラマルシェ・瀬川カフェについてミーティング
18:30～19:30	夕食
20:30	老人憩の家 針湯荘に宿泊
11月11日(日)	
6:30	起床・朝食
7:30～ 8:00	宿泊先出発
8:00～ 9:30	瀬川住民センターにて軽トラマルシェ・喫茶セガワ準備
10:00～14:00	軽トラマルシェ・喫茶セガワ開催
14:30～15:30	軽トラマルシェ・喫茶セガワ片づけ・テント撤収
15:30～	船引駅まで移動
15:56～16:21	JR 磐越東線(郡山行) 船引→郡山
17:05～17:58	JR 東北新幹線 やまびこ 150号(東京行) 郡山→大宮
18:07～18:19	JR 埼京線(東京行) 大宮→武蔵浦和
18:26～18:41	JR 武蔵野線(南船橋行) 武蔵浦和→南越谷
18:53～18:58	東武スカイツリーライン(中目黒行) 新越谷→獨協大学前

本報告書は、今年度の2度の現地訪問に基づき、昨年度提案した企画から実施に移すこ

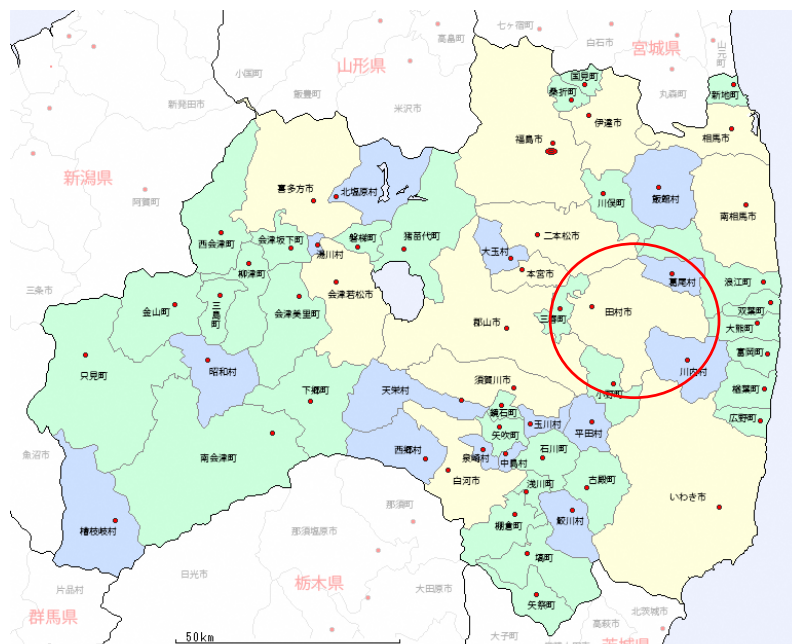
とができたマルシェ開催と、獨協大学での福島県集落復興支援物産展の開催に関する実証実験結果について報告するとともに、今年度新たに実施した実態調査に基づいて、来年度以降の企画提案をまとめたものである。

本報告書の構成は以下のとおりである。次の第2節では、瀬川地区の概要をまとめ、第3節では瀬川地区の抱える問題と課題について今年度の新しい資料に基づいて整理している。そして、第4節では、今年度実施した実証実験について実施内容・場所・成果等についてまとめる。続く第5節では、今年度の新たに実施した実態調査に基づいて、瀬川地区の地域資源としての伝統文化である無形文化財についてまとめたり、移ヶ岳の小水力発電やエコツーリズムの可能性について検討し、第6節に来年度に向けた展望として、新たな企画提案をまとめた。

## 2. 田村市船引町瀬川地区の概要

田村市船引町には、船引地区、文珠地区、美山地区、瀬川地区、移地区、芦沢地区、七郷地区、要田地区の8地区がある。瀬川地区は、田村市の北西部、田村市船引町の北部に位置し、船引町の中心部より北東へ7kmほど離れ、二本松市と隣接している(図表3参照)。

図表3 田村市と船引町瀬川地区の位置



[出典]福島県の地図(右の URL 参照)<https://uub.jp/47/fukushima/map.html>

面積は、約 17.73km<sup>2</sup>、標高 400m 前後の丘陵地である。また、東側には移ヶ岳(標高 994.5m)が位置している。瀬川地区は阿武隈高地に位置し、山がちな地形である。丘陵地の大部分が森林であり、低地の部分については、田畑の耕作地である。瀬川地区の中央を移川(1級 河川長さ 49.5km)がおおむね東西方向に流れ、これに紫川が大倉で合流し、阿武隈川へと注がれ

ている。瀬川とは、この地方の地形から付けられた名前です。移川、紫川の美しい流れが山間部のわずかに開けた平坦地を流れるさまを表しているという。

瀬川地区は<sup>かどしか</sup>門鹿、<sup>にいたて</sup>大倉、新館、石沢の4つの行政区で構成されている(図表4参照)。



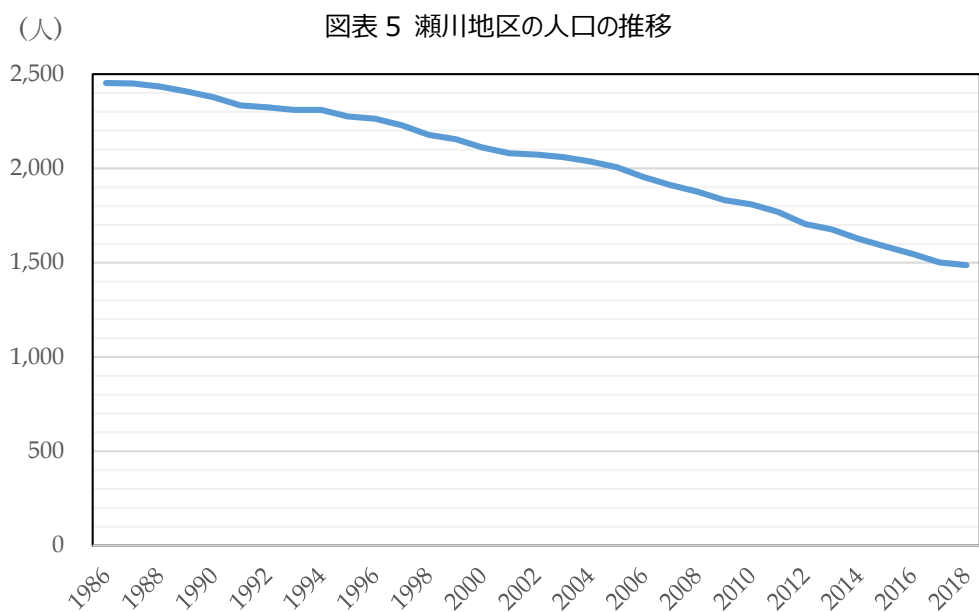
[出典]田村市の除染実施状況(以下の URL)、Google Map より作成。  
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/tamura-201608.html>

### 3. 瀬川地区の現状と問題点・取り組むべき課題

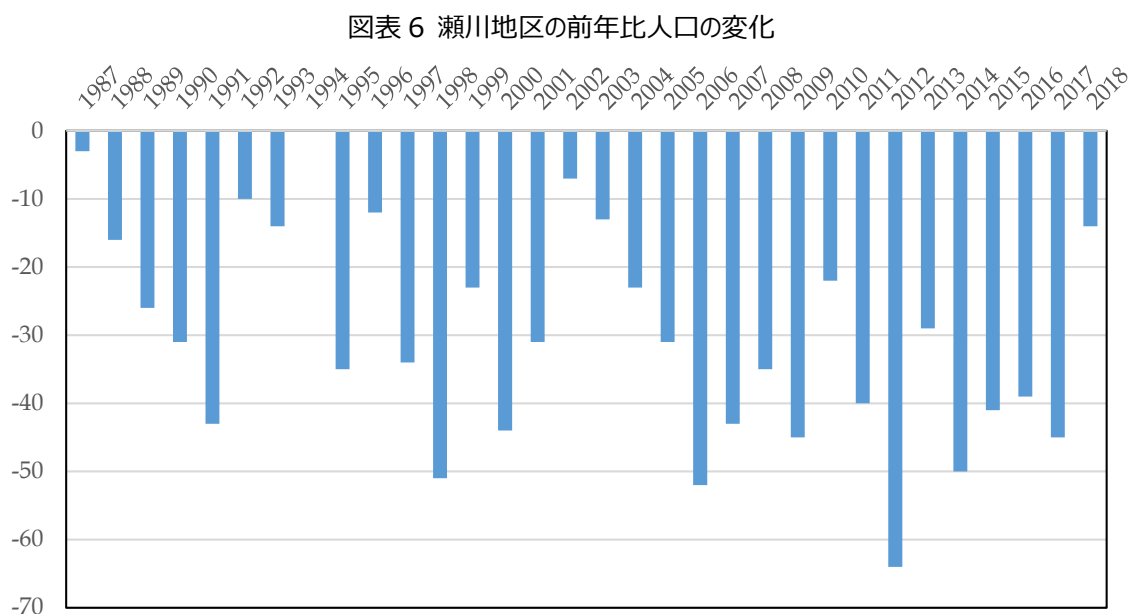
#### 3.1. 瀬川地区の人口減少と少子高齢化

図表5より、瀬川地区における2018(平成30)年2月末時点の総人口は1,487人である。行政区分で見ると、門鹿地区が237名(男性114人女性123人)、大倉地区348名(男性178人女性170人)、新館地区430名(男性206人女性224人)、石沢地区472名(男性230人女性242人)である。瀬川地区の人口は1986(昭和61)年の2,453人から2006(平成18)年には2,000人を切り、2018(平成30)年には1,500人を切って1,487人となり、約30年間で約1,000人も人口が減少した。

図表6は瀬川地区の前年比人口の変化をみたものであるが、2012年には前年比64人減となっているのは東日本大震災の影響もあると思われる、その後も人口減は大きい状態が続いている。

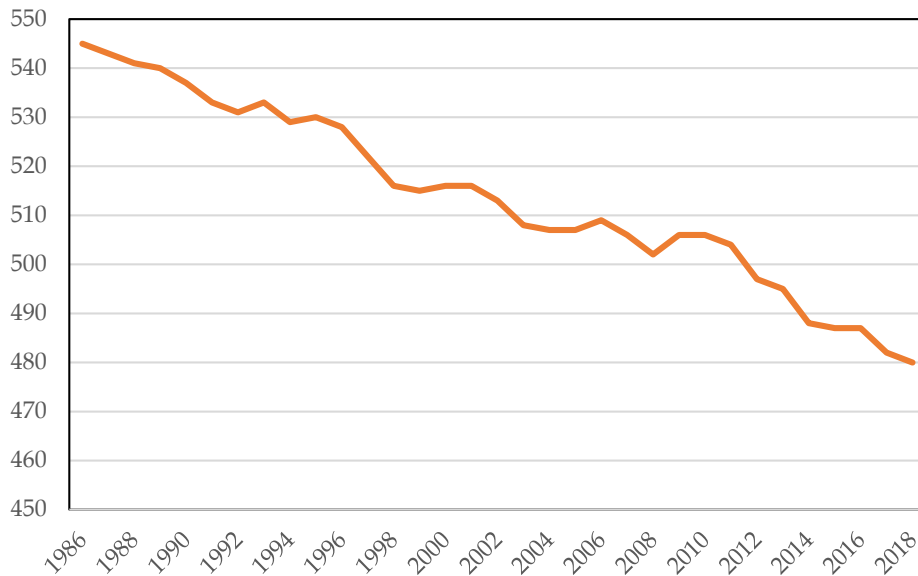


[出典]「瀬川の人口及び世帯数の推移」『住民基本台帳』より作成。



図表 7 により、瀬川地区の 2018(平成 30)年 2 月末時点の総世帯数は 480 世帯である。1986(昭和 61)年以降の世帯数の推移をみると、1986(昭和 61)年 545 世帯であったものが、所々で世帯数が増えている年もあるが、傾向としては一貫して低下を続けている。世帯数が増えている年も、必ずしも人口が増えているわけではないので、3 世代同居家族のような形態が、子供結婚に伴って、別居して新たに世帯を持つようなことによるものと思われ、これも図表 10 で見るような高齢者世帯の増加を招いているかもしれない。

(世帯) 図表 7 瀬川地区の世帯数の推移



[出典]図表 6 に同じ。

図表 8 は、2018(平成 30)年の瀬川地区における年齢及び性別単位でみた「瀬川地区人口統計表」から瀬川地区全体と 4 行政地区の人口ピラミッドを図示したものである。瀬川地区総人口 1,487 人(男性 728 人女性 759 人)を行政区分で見ると、門鹿地区が 237 名(男性 114 人女性 123 人)、大倉地区 348 名(男性 178 人女性 170 人)、新館地区 430 名(男性 206 人女性 224 人)、石沢地区 472 名(男性 230 人女性 242 人)となっている。瀬川地区全体の人口ピラミッドは壺型をしており、年齢が下に行くほど人口が少なくなっているが、昨年度の報告書でも指摘しているが、16～20 歳の女性が比較的多い。

図表 9 は瀬川地区の高齢者世帯数と一人暮らし世帯の数である。地区内の 480 世帯中で高齢者世帯が実に 24.2%を占めており、1 割が高齢者一人世帯となっている。どの地区も高齢者世帯の半数が一人世帯となっており、日常生活や健康面についての不安が大きい。

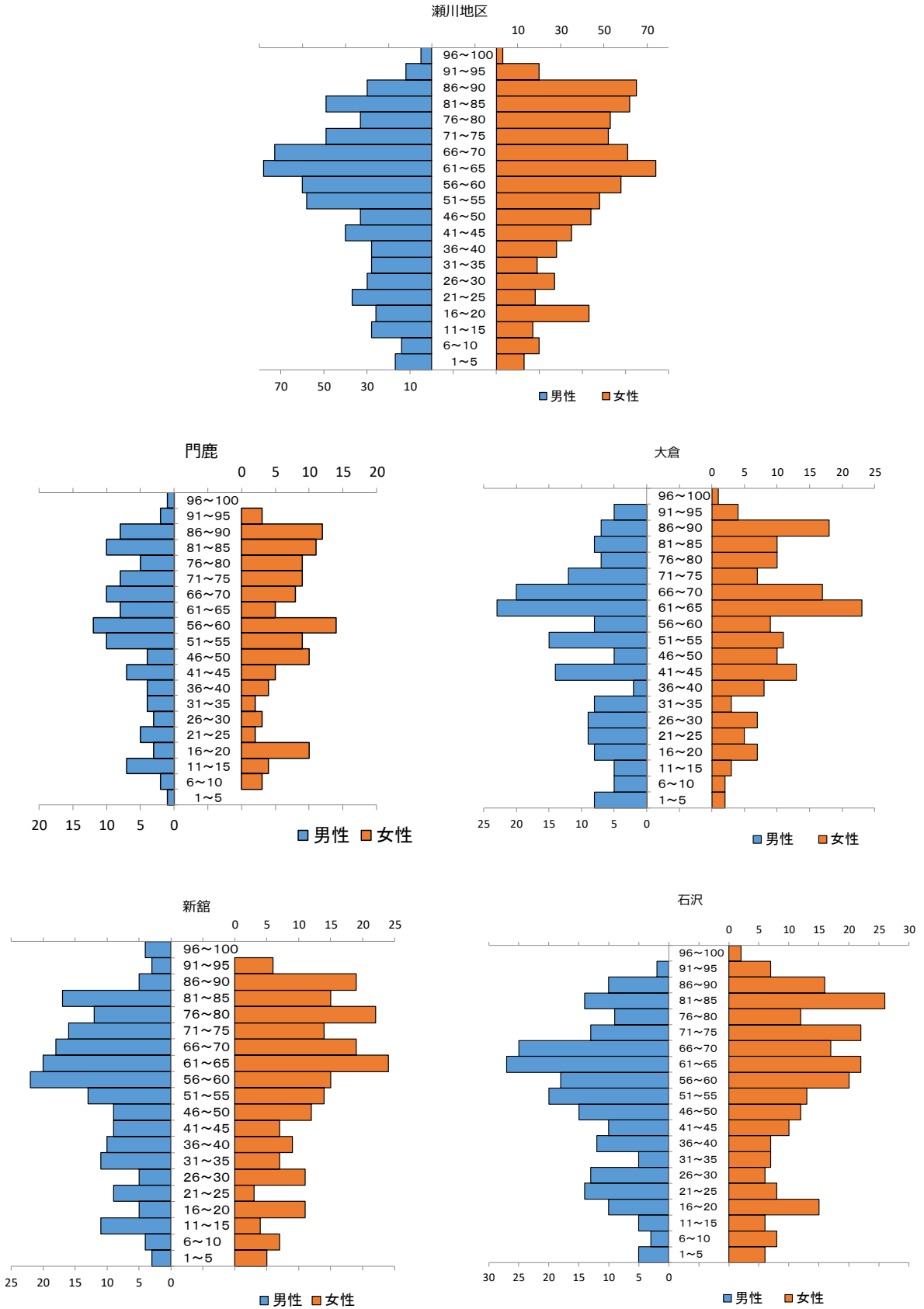
図表 9 瀬川地区高齢者等世帯数

区分	門鹿	大倉	新館	石沢	合計
高齢者世帯	23	23	34	36	116
内一人世帯	9	9	16	14	48

[出典]現地調査の際に、提供していただいた資料より引用。

図表 10 は、2018(平成 30)年度の瀬川小学校の児童数である。前年度に瀬川小学校を訪ねたときには全校生徒は 36 名であったので、そこから 2 名減少したことになる。

図表 8 瀬川地区と4行政地区の各人口ピラミッド



図表 10 2018(平成 30)年度瀬川小学校の児童数

学年	人
6 年生	6
5 年生	8
4 年生	4
3 年生	5
2 年生	7
1 年生	4
合計	34

[出典]田村市より提供していただいた資料より作成。

図表 11 は、2018(平成 30)年 12 月時点での瀬川地区未就学者数である。2019 年 4 月に小学校に入学するのは、2012 年 4 月 2 日から 2013 年 4 月 1 日の間に生まれた子供である。昨年度の報告書では 2012 年生まれの子供は 13 人もいたが、そのうちの 4 月 2 日以降に生まれた子供と、図表 10 の 2013 年生まれで 4 月 1 日までに生まれた子供である。瀬川小学校の存続のためには、なんとか瀬川からの転出を抑制し、外から瀬川地区への転入を増やす必要がある。

図表 11 瀬川地区未就学者数

	門鹿	大倉	新館	石沢	合計
2013 年生まれ	1	2	2	0	5
2014 年生まれ	1	2	0	5	8
2015 年生まれ	0	1	4	1	6
2016 年生まれ	0	3	1	4	8
2017 年生まれ	0	3	0	0	3
2018 年生まれ	0	0	3	0	3
合計	2	11	10	10	33

(注)2019 年 4 月に小学校に入学するのは、2012 年 4 月 2 日から 2013 年 4 月 1 日の間に生まれた子供。

[出典]田村市より提供していただいた資料より作成。

### 3.2. 地域活性化支援団体の地域活性化の取り組み

瀬川地区への支援活動は主に田村市とボランティアが行っている。集落支援員と瀬川地区の住民が主体となって組織された「結いの会(旧支え合う地域づくり瀬川チーム)」、「やってみっ会」、「瀬川地域づくり協議会」の 3 つのボランティア団体が、少子高齢化対策、文化や自然の維持保全等、さまざまな視点から地域を見つめ、同時に活性化を図る活動を行っている。「結いの会」は、橋本恵子氏が結成した「支え合う地域づくりチーム瀬川」が 2018 年 4 月に名称変更をした団体である。

2018年度の米山チームの活動は、「やってみっ会」(会長新田昭悟氏)を中心として、「結いの会」「瀬川地域づくり協議会」の皆さんと協働して、「第1回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の開催に企画運営として協力することが中心となった。これらについては、第4節で詳細に報告する。

### 3.3. 今年度の取り組むべき課題と企画提案

昨年度の報告書で、瀬川地区が今抱える問題として、子育てしにくく、日常生活が不便であること、収入源がないこと、外部の人が瀬川地区を訪れる理由がないこと、耕作放棄地が多いこと、空き家が増えていることなどが挙げた。そこから、私たちのチームでは瀬川地区で取り組むべき課題を以下のように設定した。

- (1) 地域住民の交流する場を増やし、日常生活に対するサポートをする。
- (2) 収入を発生させる仕組みをつくる。
- (3) 外部から注目してもらい、立ち寄ってもらい、交流人口を増す。

これらの課題を解決し、「住み続けたい」、「退職後は戻りたい」、「移り住みたい」と思えるような「住んでよし、訪れてよし」の瀬川地区を創生し、地域コミュニティを活性化させて、住民が瀬川地区のことを誇れるように「瀬川プライド」を醸成することを目標に設定した。そして、すぐにできそうなものか、時間も予算も掛かるものまで以下の8つもの企画提案を行った。

- (1) 地域住民の交流の場「コミュニティカフェ」を作る
- (2) SEGAWA マルシェの開催
- (3) エコツアーの企画・開催
- (4) SEGAWA フラワーロードの整備と「愛を込めて花を植えようプロジェクト」
- (5) 観光マップ・観光案内板の作成
- (6) 空き家や耕作放棄地の活用
- (7) 日常生活をサポートするボランティア活動
- (8) 獨協大学学園祭で瀬川産の農産物・エゴマ等の販促活動

2018年度は、実証実験として「マルシェの開催」と「獨協大学での復興支援物産展の開催」を軸に活動を行った。これらに関して次節に活動報告をまとめる。

### 4. 今年度の実証実験とその評価

今年度米山チームは、11月11日(日)に瀬川住民センターで開催された「第1回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」関連の支援と、6月と12月に開催された「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」への福島県集落復興支援物産展の出店の2つの企画について実証実験を行った。前者に関しては、「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の企画運営、軽トラマルシェで使用するマルシェ木箱製作のための木工ワークショップの運営、コミュニティカフェ「喫茶セガワ」の運営の3つの活動を行った。本節では、これら4つの実証実験について、活動報告と評価をまとめる。



#### 4.1. 「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」開催準備と運営

11月10日(土)には、翌11日(日)に開催する「第1回新そば収穫祭&軽トラマルシェ」に向けて、木工ワークショップ・軽トラマルシェ担当とカフェ担当に分かれて準備を進めた。木工ワークショップ・軽トラマルシェの準備は木工ワークショップのためのテントの組み立てや木材の準備、駐車場のライン引きや立て看板の設置など、会場準備を進めた(写真1参照)。カフェの準備はカフェの会場の装飾や買い出し、クッキーなどのお菓子作り、コーヒーなど飲み物の準備をした。どちらも和気藹々と瀬川地区の方々と親睦を深めながら行うことができた。そして、本番にむけてのミーティングを行って、士気を高めた(写真2参照)。

写真1 瀬川住民センター前の立て看板



写真2 前日準備後の記念撮影



宿泊先の田村市滝根町「老人憩の家針湯荘」では、翌日の軽トラマルシェに向けてプライスカードとポップを作成した。

図表 12 企画①「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」開催準備と運営

実施企画名	「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」開催準備と運営
開催日	2018年11月11日(日) 10:00~14:00
開催場所	瀬川住民センター
企画概要	<p>2018年11月11日(日)にやってみつ会主催、瀬川地区区長会、結いの会、瀬川地域づくり協議会共催で「第1回 せがわ新そば収穫祭&amp;軽トラマルシェ」が開催された。瀬川住民センターの屋内では、新そばの十割そばを手打ちして販売する「新そば収穫祭」と、コミュニティカフェ「喫茶セガワ」を開催し、屋外では地元住民による野菜・特産品や木工品・陶芸品を販売する「軽トラマルシェ」を開催した。</p> <p>米山チームはこのイベントに全面的に協力し、前日10日にはミーティングを行って情報を共有し、役割分担を決めたのち、それぞれ持ち場において会場の設営、「喫茶セガワ」の準備、クッキーづくり、「木工ワークショップ」など、</p>

	<p>準備を行った。</p> <p>「新そば収穫祭」当日の11日(日)には、やってみっ会が今年、収穫した新そばで十割そばを打って地域住民や来場者に販売した(写真3~7参照)。米山チームはこのイベントに打ち立てのそばの販売スタッフとしてサポートしたり、「喫茶セガワ」を実施してイベントを盛りあげたり、「木工ワークショップ」をサポートするなど、「新そば収穫祭&amp;軽トラマルシェ」の全般的な運営スタッフとして協力した。</p>
評価	<p>[軽トラマルシェ設営]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに手順を確認しておくべきだった。</li> <li>・傾斜台が使われていたので、商品が見やすかった。</li> </ul> <p>[新そば販売]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新そばが目的で来場する方が多くいて、お客で賑わっていた。</li> <li>・そばの担当や販売体制が練られておらず、30分ほどお客さんを待たせてしまうことがあった。</li> <li>・温かいそばが冷めてしまっている方がいた。</li> </ul>
今後の課題・展望	<p>[軽トラマルシェ設営]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はさみとヒモが何個かあるとよい。</li> <li>・定期的に開催できたら良い。</li> <li>・学生がもっと主体的に動くべき。</li> </ul> <p>[新そば販売]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引換券に番号を振るか、番号札があった方が良い。</li> <li>・そばの好きな人は冷たいそばを好むので、ざるやもりもあるとよい。</li> <li>・そばの人気の高さが分かったので、もっと田村市だけではなく、周辺の地域にも呼びかけを行うべき。</li> </ul>

写真3 やってみっ会のそば打ちの様子



写真4 新そば収穫祭受付



写真 5 新そば収穫祭会場



写真 6 新そばを堪能する来場者



写真 7 新そばを提供するメンバー



「新そば収穫祭」には非常に多くの来場者が訪れ、今回のイベントの中で一番人気であった。今回は温かいそば一種類の提供だったが、冷たいそばはないのかと尋ねる来場者もいたので、ざるそば・もりそば等の需要も結構あると思われた。そば本来の味は冷たいそばの方が引き立つのでそば通は冷たいそばを好む傾向があるのではないだろうか。また、そばをお出しする順番がわからなくなってしまうため番号札を導入する案や、さらに周辺の地域にも瀬川産そばをPRする活動が必要だと感じた。

また、「軽トラマルシェ」では軽トラの荷台に木工ワークショップで製作したマルシェ木箱を設置して、瀬川地区で取れた農作物を販売した(写真8～13参照)。農作物はジャガイモ、サツマイモ、カボチャ、ハヤトウリ、こんにゃく芋、長芋、自然薯、ヤーコン、アピオス、エゴマ油、花などが並んだ。また野菜と一緒に手芸品を出品する軽トラがあったり、木工品、陶芸品の販売する軽トラがあった。



写真 8 軽トラマルシェの様子(1)



写真 9 軽トラマルシェの様子(2)



写真 10 軽トラマルシェの様子(3)



写真 11 軽トラマルシェの様子(4)



写真 12 軽トラマルシェの様子(5)



写真 13 軽トラマルシェの様子(6)



このイベントの実施目的は、昨年度の報告書に記載したように、田村市瀬川地区に瀬川地区の外部の人も含めて多くの人を訪れて、お金を落とし経済循環を促すことで、瀬川地区の人々の暮らしを豊かにすることである。また軽トラの荷台に木工ワークショップで製作し

たマルシェ木箱を設置し、農産物をマルシェ木箱に入れて販売することで、マルシェの雰囲気づくりができたことはとてもよかった。

得られた効果として、瀬川地区でとれた野菜を販売することで地域を豊かにし、地域の方々の交流の場となった。今後、マルシェが定期開催されていけば、マルシェに出品する地域住民にとっても出品が生き甲斐となる。さらに、今回は新そば収穫祭と同時開催で軽トラマルシェを開催したが、今後、音楽イベントやトークイベント、地元の子供たちの発表会、お茶会など、さまざまなイベントと組み合わせて開催されていくことで、地域活性化の一つの柱に育っていけばと期待している。より多くの来場が集まるイベントになっていって、地域コミュニティににぎわいが広がっていくことを期待したい。

マルシェは今後も第2回、第3回と継続して開催していきたい。次回のマルシェでは、マルシェの配置や販売する農産物をまとめたパンフレットを作成したり、子供が対象の催しを行うのも集客につながるかもしれない。

今後の展望としては、広報活動を積極的に行い、より広い範囲から来場者が訪れるような「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」にしていきたい。

#### 4.2. 「マルシェ木箱を製作する木工ワークショップ」の開催

木工ワークショップでは、軽トラマルシェで使用するマルシェ木箱を製作した。事前に田村市森林組合から調達した杉材を、地元の建築会社、佐藤建築に加工してもらって、マルシェ木箱用のキットに組んでもらい、当日ワークショップ参加者と一緒に組み立てた。

「マルシェ木箱を製作する木工ワークショップ」は、やってみっ会が申請して採択された、平成30年度「地域経済産業活性化対策費補助金(被災12市町村における地域のつながり支援事業)」第3次公募の補助事業「マルシェ開催のための田村市の間伐材を使った木工ワークショップの開催」に基づいて実施されたものである。やってみっ会の申請に当たっては、9月に大学と「テラス石森」をネットで中継してテレビ会議を実施し、企画案を詰めて、米山チームが全面サポートして申請書類を作成した。

図表 13 企画②「マルシェ木箱を製作する木工ワークショップ」の開催

実施企画名	「マルシェ木箱を製作する木工ワークショップ」の開催
開催日	2018年11月10日(土)13:00~15:00 11月11日(日)9:00~14:00
開催場所	瀬川住民センター駐車場
企画概要	11月11日開催の「第1回 せがわ新そば収穫祭&軽トラマルシェ」において、軽トラの荷台にディスプレイするマルシェ木箱40箱を、田村市産杉材を使用して製作する「木工ワークショップ」を11月10日(土)・11日(日)の両日開催した。この実証実験の目的は、①軽トラの荷台にマルシェ木箱をディスプレイして、マルシェの雰囲気を高めること、②地域住民がマルシェ木箱を製作することで、みんなでマルシェを作り上げるという意識を高め、マルシェに足を運



	んでもらえるようにすること、③軽トラマルシェを認知してもらうことである。
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい子供でも参加できたのが良かった。</li> <li>・参加してくれたのはやってみっ会の身内が中心だった。</li> <li>・参加者が予想よりも少なかった。</li> <li>・宣伝が十分ではなかった。</li> <li>・なにをしているのかわかりづらく、近寄りづらかったのではないか。</li> <li>・子供たちが怪我をしないか、しっかりとサポートしなくてはいけなかった。</li> <li>・込み合った際、待ち時間が長く、退屈している子供が多かった。</li> <li>・釘を打つだけのシンプルな作業で飽きてしまう。</li> <li>・マルシェ木箱の高さが低いという意見もあった。</li> </ul>
今後の課題・展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・椅子を用意したり、コミュニケーションをとるなど、子供が退屈しないように待ち時間に対する配慮が必要。</li> <li>・釘を打つ作業だけでなく、前後の過程も取り入れる。</li> <li>・広報活動について、学校やスーパー、駅にポスター貼る。</li> <li>・住民センターの入り口に看板立てる。</li> <li>・他のイベントに付随して行う。</li> <li>・駐車場を手配し、道路沿いにも広告を掲示する。</li> <li>・木工品のバリエーションを増やすか、日常的に使えるものにする。その際参加者から費用を徴収するか検討する。</li> <li>・椅子でもお風呂のイスなど、普段使いできる実用性のあるものに変えるべき。</li> <li>・木箱なら色を塗ったり、彫刻刀などでデコレーションできるようにする。。</li> </ul>

11月10日(土)には、会場の清掃・テントの設営から始まり(図表14、15参照)、10日(土)・11日(日)の両日、瀬川地区の佐藤建築のM.S氏の技術指導のもと、私たち米山チームがサポートして、小学生など参加者と一緒にマルシェ木箱40箱とマルシェ木箱用傾斜台10台を製作した。最初は我々も不慣れなため手こずっていたが、徐々に学生主導で行うことができるようになった。

写真14 木工ワークショップ会場の設営



写真15 木工ワークショップのテント



木工ワークショップで使用する木材は、田村市は市域の7割を森林が占めており、林業振興にも資するように、「田村市産杉材」を使用している。

### 企画実施の効果

「第1回 せがわ新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の前日準備日10日(土)のほうの木工ワークショップには参加者は8名にとどまったが、軽トラマルシェ当日の11日(日)のほうには、20名もの参加者が集まり、両日合わせて延べ28名の方が木工ワークショップに参加してくれた(図表14参照)(写真16~19参照)。

図表14 木工ワークショップ参加人数

	参加者人数	内訳
11月10日(土)	8名	大人1名、子供7名(いずれも小学生)
11月11日(日)	20名	大人4名、子供16名(うち未就学児8名、小学生7名、中学生1名)
計(延べ人数)	28名	大人5名、子供23名

写真 16 木工ワークショップの様子(1)



写真 17 木工ワークショップの様子(2)



写真 18 木工ワークショップの様子(3)



写真 19 木工ワークショップの様子(4)





木工ワークショップには、瀬川小学校に通う小学生をはじめ、子供がたくさん参加してくれた。チラシに「小学生以上」を対象としていたため、小学生が多かったと思われる。子供たちの慎重に釘を打つ様子や笑顔で作業する様子が見られた。若い大学生がサポートスタッフに入ったことで、子供たちは大学生ととても仲良くなり、木工ワークショップを楽しむことができ、ワークショップが子供たちのはしゃいだ声で盛り上がった。また、M.S氏はマルシェ木箱の他に、子供たちのために小さな木箱のキットも用意してくださり、子供たちには小さな木箱作りを体験してもらい、それをプレゼントした。

木工ワークショップ単独で開催した11月10日(土)には参加者も少なく、それほど盛り上がりなかったが、11日(日)には「新そば収穫祭」と「軽トラマルシェ」が盛況であったので、木工ワークショップにも大勢参加してくれて、軽トラマルシェと木工ワークショップが行われた瀬川住民センターの駐車場では、来場者と出店者、来場者同士、あるいは出店者同士が交流する光景がそここで見られた。小学生以下の子供が多く参加してくれて、和気あいあいとした雰囲気で開催された。

また、11日には「せがわ新そば収穫祭&軽トラマルシェ」に来場された本田仁一田村市長も、木工ワークショップに参加してくださり、慣れた手つきで電動ドライバーでネジ釘を留めていた(写真20、21参照)。このイベントから得られた効果を以下のまとめておく。

写真20 本田仁一田村市長も参加(1)



写真21 本田仁一田村市長も参加(2)



#### ①地域住民が自分たちでマルシェを作り上げるという当事者意識の醸成

木工ワークショップに参加してくれた大人の方、自分の子供がワークショップに参加した保護者の方々は、自分たちが製作に携わったマルシェ木箱をディスプレイして軽トラマルシェが開催されているのを見て、「自分たちも軽トラマルシェ開催に協力している」、「一緒にイベントに関わっている」という当事者意識が生まれたのではないと思われる。アンケート調査など実施すればはっきりと効果を捉えることができたかもしれないが、これは次回の課題としたい。



## ②地域住民の新たな交流の創出

マルシェ木箱を地元の木工職人に指導してもらいながら、大学生がサポートに入り、地域住民が自分たちで製作するワークショップにより、小学生をはじめとして、子供がたくさん参加してくれた。子供が参加すると、保護者の方も一緒に来場するので、保護者の方同士の交流が見られた。

## ③マルシェのお洒落な雰囲気づくり

会場設営が容易な軽トラを使ったマルシェ開催であったが、農家の方が野菜を持ってきたコンテナでそのまま販売するのではなく、軽トラの荷台に傾斜台を設置してマルシェ木箱を4箱配置して、そこに持ってきた野菜をディスプレイしたことで、お洒落な雰囲気を創り上げることができた(写真 22～25 参照)。第1回の軽トラマルシェが、お洒落なマルシェ木箱を使ってディスプレイできたこともあって成功裏に終わった。自分たちの活動が、少しはにぎわい創出に貢献できたのではないかと嬉しく感じている。

作ったマルシェ木箱40箱とマルシェ傾斜台は、次回以降のマルシェでも使用され、お洒落な雰囲気づくりに役立てられ、第2回、第3回とマルシェへの出店者、来場者ともに参加者が増えていくと期待したい。

写真 22 マルシェ木箱の設置の様子



写真 23 軽トラの荷台に設置したマルシェ木箱



## 田村市産杉材を使ったマルシェ木箱製作による林業振興

田村森林組合のウッドミル田村(田村森林組合木材加工センター)から田村市産杉材を調達することで、田村市の林業振興に少しは貢献できたいと思われる。このような林業振興は田村市だけにとどまらず、いろんな地域振興に活用できるかもしれない。来場された本田仁一田村市長にもこの事業の意義を説明させていただいた。

日本各地で開催されるマルシェにマルシェ木箱を使った事例は珍しくないかもしれないが、地元の林業振興とリンクさせた木工ワークショップを同時開催するのは、本事業に独自

性があったと考えている。この仕組みを田村市内全域、さらには被災 12 市町村、あるいは福島県内全域に広げることで、福島県内の林業振興に貢献できないか、今後の課題としたい。

写真 24 マルシェ木箱の設置した軽トラ(1)



写真 25 マルシェ木箱の設置した軽トラ(2)



#### 広報に関して残された課題

本実証実験の反省としては、取り組むまでに時間がかかったことが挙げられる。そのため、広報活動自体は行うことができたが、効果は薄かったように感じた。「木工ワークショップ」の広報としては、獨協大学地域活性化プロジェクト米山チームの学生が広報のためのチラシ(図表 15 参照)を作成して、田村市船引町瀬川地区の回覧板「せがわだより」発行に合わせて回覧した。「木工ワークショップ」の開催が決まってから、日程があまりなく、唯一 11 月 1 日の回覧板しか利用できず、回覧板が地区のおよそ 480 戸全戸に回るまでには 1~2 週間掛かるため、地域住民の全世帯への周知が間に合わなかったかもしれない。より工夫した広報活動及び迅速な行動が今後必要になってくるだろう。また、広報活動が地域の回覧板のみだったので、参加者は地域の子供達を中心であった。

また「第 1 回 せがわ新そば収穫祭&軽トラマルシェ」については、10 月 15 日の回覧板で広報し、月 1 回発行の田村市広報誌にも案内を出したため、軽トラマルシェが開催された 11 日(日)のほうには、木工ワークショップの参加者が多かった。木工ワークショップについても、田村市広報誌などもっと広い地域で宣伝をすれば外部からの集客が見込める催しであったと思う。

また、獨協大学地域活性化プロジェクトの公式 Facebook を立ち上げて、木工ワークショップ開催について広報してもらったり、Twitter、Instagram など SNS で発信してもらう予定であったが、予定していたような広報活動がほとんどできなかった。田村市役所内の掲示板、図書館、テラス石森などの施設にもポスター掲示もできなかった。これは今後の課題としたい。地域住民への案内は回覧板がもっとも有効な広報手段であったが、全世帯に回覧板が回るまで、時間が掛かるのが難点であった。

図表 15 「木工ワークショップ」のチラシ



以上総括すると、広報の課題は残るものの、今回の木工ワークショップ開催によって、地域住民が主体的に地域活性化に取り組むという機運を高めるとともに、住民同士のつながりや来場者との交流促進に貢献できたのではないかと思います。佐藤建築の M.S 氏には、木工ワークショップの開催に全面的に協力していただいた。この場をお借りしてお礼を述べたい。

#### 4.3. コミュニティカフェ「喫茶セガワ」の開設

瀬川地区の住民同士の交流の場の提供を目的として、11月11日(日)の実証実験で瀬川住民センターにコミュニティカフェ「喫茶セガワ」を開設した(図表 16 参照)。喫茶セガワでは、福島県いわき市の ethicafe 企業が販売しているフェアトレードコーヒーのほか、子供たち用にココア、カルピス、オレンジジュースを用意した。また、瀬川地区の片山ひで子氏の指導の下、住民の方と私たち学生で一緒に作った手作りのクッキーを提供した。

図表 16 企画③ コミュニティカフェ「喫茶セガワ」の開設

実施企画名	コミュニティカフェ「喫茶セガワ」
開催日	2018年11月11日(日)10:00~14:00
開催場所	瀬川住民センター屋内
企画概要	瀬川地区の住民同士の交流の場の提供を目的として、「せがわ新そば収穫祭

	<p>&amp;軽トラマルシェ」のイベントの1つとして、瀬川住民センターにコミュニティカフェ「喫茶セガワ」を開設した。「喫茶セガワ」の開催場所では、新そば収穫祭の来場者がそばを食べる場所にもしてあり、そばを食べ終わった来場者にコーヒーやソフトドリンク、手作りクッキーを販売するという形態で実施した(写真 26、27 参照)。</p>
評価	<p>[クッキー製作に関して]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキーは、数種類作ることができて良かった。</li> <li>・製作する個数の事前確認が足りなかった。</li> <li>・紙皿に乗せて提供するのは、少し寂しい気がした。</li> </ul> <p>[喫茶セガワに関して]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェを開催していることが、外からわかりにくかった。</li> <li>・お客さんが一度にたくさん来店した時にスムーズな接客ができなかった。</li> <li>・見積りが甘く、実際の売上の差が大きかった。</li> </ul>
今後の課題・展望	<p>[クッキー製作に関して]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキー以外も製作可能ならメニューを増やすこともできる。</li> <li>・具体的な個数や材料について確認を取る。</li> <li>・お菓子の種類を増やしたり、包装の仕方を考えたりした方が良い。</li> <li>・今回は普通のクッキーだったが、今後瀬川の特産品を含んだお菓子も良いかもしれない。</li> </ul> <p>[喫茶セガワに関して]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民センターの入り口に看板立てるべき。</li> <li>・正面玄関から入ってすぐの場所にレジや受付あるとよい。</li> <li>・事前にメニューや価格設定をもっと考えておく必要があった。</li> <li>・仕入れ値をもっと抑える必要がある。</li> <li>・お客さんの注文した順番がわかるように番号札を準備した方が良かった。</li> <li>・コーヒーのドリップについては温度管理や作り置きのは非などは検討する必要がある。</li> <li>・メニューを増やすことも検討する。</li> <li>・ホールの役割のスタッフを配置した方がよかった。</li> <li>・広報活動をしっかりやる。</li> <li>・定期開催を行うべき。</li> </ul>

手作りクッキーの枚数が限られていたため、クッキーは単品での販売はせずに、すべて飲み物とセットでの販売として、全て完売した(図表 17 参照)。



図表 17 喫茶セガワ・メニュー

クッキー付お飲み物		お飲み物単品	
コーヒー・クッキー付	150円	ホットコーヒー	100円
ココア・クッキー付	100円	ホットココア	50円
カルピス・クッキー付	100円	カルピス	50円
オレンジジュース・クッキー付	100円	オレンジジュース	50円

図表 18 は、今回の喫茶セガワの収支報告書である。米山チームで購入した飲み物関係の支出は 12,252 円で、売上は計 127 注文で 13,500 円であり、これだけ見ると赤字が発生している。しかし、クッキー作りの材料費まで合わせて費用とすると、費用総額は 14,994 円となって、売上を下回った。今後、継続してコミュニティカフェを実施していくとすれば、赤字で運営していくことが重要となる。また、飲み物や食べ物の品質を上げていくことなども課題だろう。

図表 18 喫茶セガワ収支計算書

支出				収入			
品目	単価	個数	小計	品目	単価	個数	小計
コーヒー粉(200g)			¥5,970	コーヒー・クッキーセット	¥150	32	¥4,800
ペーパーカップ(50個入)	¥108	4	¥432	ココア・クッキーセット	¥100	10	¥1,000
ミニドラー(150個入)	¥108	1	¥108	カルピス・クッキーセット	¥100	9	¥900
ステンレス製計量スプーン	¥108	1	¥108	オレンジジュース・クッキーセット	¥100	12	¥1,200
A4高透明PPカードケース	¥108	1	¥108	コーヒー	¥100	48	¥4,800
紙コップフォルダーナチュラル	¥108	3	¥324	ココア	¥50	6	¥300
メジャーカップ約50ml	¥108	1	¥108	カルピス	¥50	3	¥150
計量カップ500	¥108	1	¥108	オレンジジュース	¥50	7	¥350
カルピス原液(470ml)	¥298	2	¥644				
ミルクココア(300g)	¥298	2	¥644				
オレンジジュース(900ml)	¥148	3	¥480				
クレマトップポーション(40個入)	¥168	3	¥544				
カップベットのシュガー(5g×100本入)	¥288	1	¥311				
氷(1kg)	¥188	1	¥203				
フィルムバルーン ハート	¥108	1	¥108				
ヘリウムガス	¥108	1	¥108				
テーブルクロス欧風柄バステル	¥108	6	¥648				
厚紙両面白色A3用4枚入り	¥108	3	¥324				
コーヒードリッパー2-4杯用	¥108	3	¥324				
ペーパーナプキン業務用	¥108	1	¥108				
ペーパープレート15cm30枚	¥108	3	¥324				
テーブルペーパー	¥108	2	¥216				
合計			¥12,252	合計		127	¥13,500
収支			¥1,248				

\*網掛けの商品単価は消費税は外税、その他はすべて内税

クッキー作り材料費(瀬川住民負担)

品目	単価	個数	小計
薄力粉1kg	¥354	1	¥354
無塩バター600g	¥495	3	¥1,485
上白糖	¥168	1	¥168
卵	¥203	1	¥203
バニラエッセンス	¥108	1	¥108
グラニュー糖	¥189	1	¥189
牛乳	¥235	1	¥235
合計			¥2,742
総計			¥14,994
収支			¥-1,494

写真 26 喫茶セガワの様子



写真 27 注文品を届けるメンバー



喫茶セガワで提供するクッキーを、地元の方に作り方を習いながら協力して作ることができた。販売個数と材料、値段などの事前準備・確認が足りなかったことが反省点としてあった。販売する際は紙皿にのせて提供したが、味気なかったので次回は包装についても改善するべきだという意見が出た。瀬川の特産品を使用したお菓子をつくることも今後の展望としてあった。

コミュニティカフェ「喫茶セガワ」の開設準備の段階で私たち学生と瀬川地区の住民の方が一緒にクッキーを作ったことで、学生と瀬川地区の住民の方々との間に交流が生まれた(写真 28、29 参照)。また、「喫茶セガワ」の会場では、瀬川地区の住民同士の交流を多く見ることができたので、瀬川地区の住民同士の交流の場の提供という、このコミュニティカフェの目的を果たすことができたと考える。

写真 28 クッキーを製作する様子(1)



写真 29 クッキーを製作する様子(2)



「喫茶セガワ」は新そば収穫祭でそばを提供する会場と同じ場所にしたことで、カフェを単独で開設するよりも、ずっと多くの方に購入してもらうことができた。多くの来場者がコーヒーとクッキーのセットを注文してくれた。コーヒーはやってみっ会からの要望もあり質を重視したハンドドリップでの提供だったため、一度に多くの注文を受けると時間がか

かってしまうこともあった(写真 30 参照)。

写真 30 コーヒードリップの様子



コーヒーについては一度に多くの注文が入ると、一杯ごとのハンドドリップでの提供が難しい。次回からはコーヒーメーカーも使用した提供で効率的に提供して、より多くのお客さんを獲得できるようにしていきたい。また、価格設定が難しく今回は赤字になってしまった。仕入れ値を抑えることや、適正価格の算出をして、自律したカフェとして採算が取れるような運営を行って行かなければならない。また、事前準備では学生スタッフが図表 19 の「喫茶セガワ」のチラシを作成し、地元住民には回覧板で広報してもらった。

図表 19 「喫茶セガワ」のチラシ

喫茶  
セ  
ガ  
ワ

ほっとひといき  
あたたかい飲み物  
おいしいお菓子  
いかがですか？

コーヒー      クッキー      ジュース

場所 瀬川住民センター  
時間 10:00~14:00  
主催 やってみっ会  
獨協大学地域活性化プロジェクト



今回は、11月11日の「せがわ新そば収穫祭&軽トラマルシェ」においての1日限りの開設だったが、今後、定期的を開催することで、地域のコミュニティの場になると考えられる。次回開催する際には、今回の課題を改善し、瀬川地区の住民同士がより交流しやすいコミュニティカフェを開設したい。

#### 4.4. 獨協大学における瀬川地区の物産展開催～Earth Week Dokkyo 2018～

本学では夏季と冬季の年2回、「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」を開催している。2018年度は、夏季は6月25日(月)～30日(土)、冬季は12月10日(月)～15日(土)に“Earth Week Dokkyo”が開催された。米山チームは、夏季には6月25日(月)に、冬季には12月10日(月)、11日(火)、13日(木)の昼休みの時間帯に、福島県復興支援物産展を行った。

写真 31 “Earth Week Dokkyo～Summer～”で開催された集落復興支援物産展



図表 20 企画④ 福島県集落復興支援物産展の開催

実施企画名	福島県集落復興支援物産展の開催
開催日	2018年6月25日(月) 11:30～13:30 2018年12月10日(月)、11日(火)、13日(木) 12:30～13:30
開催場所	獨協大学 35周年記念館学生食堂階段脇(アリーナ入口前)
企画概要	田村市船引町瀬川地区のことを多くの方々に知ってもらおうと同時に、福島県産の農産物の安全安心をPRすることを目的に、「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」に他の地域活性化プロジェクトチームと一緒に出店し、瀬川産の農産物や特産品のエゴマ油の販売を行った。瀬川地区および米山チームの活動の紹介のために、立て看板にチームの活動報告をまとめた壁新聞を展示した(写真 32～36 参照)。
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報が功を奏し、多くの来場者に来ていただけた。</li> <li>・ 購入していただいた方も、一時的な購買行動に留まってしまっているよ</li> </ul>



	<p>うに思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動報告を掲載した壁新聞を立て看板に貼って展示したが、文字が多く読みづらかったためか、あまり読んでいただけなかった。</li> </ul>
今後の課題・展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日を増やす。</li> <li>・壁新聞に写真を多くしたりするなど工夫をして作成していきたい。</li> <li>・「獨協大学前」駅から松原団地記念公園までのメインストリートで開催も検討する</li> <li>・継続的な農産物の購入につなげるための方策を検討する。</li> <li>・そば打ち体験プログラムなど合わせて行えないか検討する。</li> </ul>

写真 32 集落復興支援物産展の様子(1)



写真 33 集落復興支援物産展の様子(2)



写真 34 集落復興支援物産展の様子(3)



写真 35 集落復興支援物産展の様子(4)



物産展開催に際しては、大学に隣接する団地「コンフォール松原」(旧松原団地)に1000枚を超える福島県農産物物産展のチラシをポスティングした。多くの来場者に来ていただいて、農産物は完売させることができた。米山チームの活動報告をまとめた壁新聞を看板に貼り、チームの活動報告を行ったりした。

しかし、活動報告を掲載した壁新聞の文字が多く読みづらかったため、あまり読んでいただけなかった。次回行う際には、開催日を増やしたり、壁新聞に写真を多くしたりするなど工夫をして作成していきたい。

ただ、物産展としては盛況であったが、たんに物産展を行っても継続的な農産物の販売につながらないのではないかという根本的な疑問も湧いた。農産物を取り寄せる宅配料を掛けて販売しても、来場者の一時的な購買行動にしかならないのであれば、効果は薄いだろう。大学、あるいは草加市での福島県集落復興支援物産展の狙いをどこに設定するか、今一度議論が必要だろう。

#### 4.5. 実施した実証実験の評価と次年度にむけた展望

今年度の実証実験は、11月11日(日)開催の瀬川住民センターでの「第1回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」開催に関するものと、本学での「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」における集落復興支援物産展に関するものとなる。「第1回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」開催に関する活動としては主に3つあり、マルシェ木箱製作のための「木工ワークショップ」の開催、コミュニティカフェ「喫茶セガワ」の開催、「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」開催運営の支援である。

11月10日(土)・11日(日)には、一般の参加者と一緒に「軽トラマルシェ」で使用するマルシェ木箱とそれを並べるための傾斜台を、製作する「木工ワークショップ」を開催した他に、10日には、コミュニティカフェ「喫茶セガワ」で販売するクッキーを製作したり、「軽トラマルシェ」の準備を行った。11日には「新そば収穫祭」の運営をサポートし「喫茶セガワ」を開催した。

それぞれの評価と展望については、4.4までに述べてきたので、ここではそれぞれを総括して、「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」イベント全体について意見をまとめておく。今後の開催日の設定や開催頻度については次のような意見が出された。

- ・マルシェは月に1回程度行うのが良いが、住民の手間も考えれば、そこまで頻繁にはできないので、年1、2回程度が良い。
- ・冬は天候に左右されるため、住民センターの室内でやってもいいが、規模が小さくなってしまうので、次回は春や夏に開催したらどうか。
- ・人口に対してあれだけの集客力があるのならば、定期的にやらない手はない。
- ・野菜収穫に合わせて、また学校の休みに合わせて開催する。
- ・ほかのイベントとの同時開催が望ましい。
- ・住民だけでなく全国から人が集まるようなイベントと合わせて開催する。
- ・土日開催が望ましい。

このように、マルシェ開催日の設定や開催頻度については、メンバー内でもさまざまな意見が出されたので、次年度は早めに住民の方々と調整して開催頻度を決めていきたい。次に、次回マルシェにおける新しい取り組みについては、次のような意見が出された。

- ・駐車場のマルシェや屋内のイベントの地図と内容をまとめたパンフレットや、それぞれの軽トラの説明や写真などの載った壁新聞を作成してみてもどうか。
- ・農産物の食べ方を紹介したチラシや試食なども用意すると、食べたことがない珍しい農産物も購入してもらいやすい。
- ・今回は、マルシェと喫茶セガワの場所が遠く離れており、別物になっていたが、気候の良い季節ならば喫茶セガワを屋外で開催し、それを取り囲むようにマルシェを開催すればどちらかのついでにどちらかに寄ってもらえる確率が高くなるかもしれない。
- ・子供受けがよさそうなものも売る。例えば、夏なら昆虫なども販売できるかもしれない。
- ・子供の参加が多かったので、子供向けに絞るのも1つかもしいない。
- ・今後は食品などをマルシェで販売しても面白いのではないかと。

次年度以降、これらの意見を地域住民の方々と議論して、よりよい形のマルシェ開催の形態を探って、継続開催に協力してしていきたい。

## 5. 今年度実施した実態調査と課題設定

さて、今年度は実証実験だけでなく、昨年度に引き続き、実態調査を実施した。これにより、次年度に向けてまた、新しい課題を設定し、提案企画についてまとめて実証実験に移していきたいと考えている。本節では、この実態調査についてまとめておく。

### 5.1. 瀬川地区 4 行政区の神社と伝統芸能

瀬川地区には、多くの神社・仏閣があるが、特筆すべきは4つの行政区、石沢、新館、大倉、門鹿にそれぞれ伝統芸能が奉納される神社があるということである。「石沢の三匹獅子舞」が奉納される鹿島・熊野神社、「新館の太々神楽」が奉納される新館神社、「大倉の太々神楽」が奉納される大倉神社、「門鹿の太々神楽」が奉納される王子神社・古室神社があり、「石沢の三匹獅子舞」、「大倉の太々神楽」は「田村市指定無形民俗文化財」にも指定されている。9月30日の現地調査では、これらの4か所の神社と、「田村市指定有形民俗文化財」に指定されている絵馬「馬籍の図」、「日渡神社の算額」のある日渡神社を視察した。

#### ● 「石沢の三匹獅子舞」が奉納される石沢鹿島・熊野神社

[所在地]田村市船引町石沢字東宮久保 109

鹿島・熊野神社は県道 50 号線(浪江三春線)から県道 303 号線を北に入ると、石沢地域多目的集会所のところを左折してしばらく行くと、右手に参道が見えてくる(写真 36 参照)。鳥居をくぐって石段を登っていくと、境内に出る(写真 37 参照)。参道の脇には、福島県緑の文化財に登録されているという二本の大杉がある(写真 38 参照)。



写真 36 鹿島・熊野神社の参道



写真 37 鹿島・熊野神社



写真 38 参道脇の二本の大杉



●日渡神社

[所在地]田村市船引町新館下 896

県道 50 号線から南に少し入ったところにある。山の裏側から境内まで車で上がることができるが(写真 39 参照)、参道は県道 50 号のすぐ脇にある標識から入って行って、180 余段ある石段が続く(写真 40~42 参照)。



写真 39 日渡神社



写真 40 県道 50 号線沿いの参道の入口



写真 41 参道を指す松本代表区長



写真 42 参道の 180 余段ある石段



日渡神社は馬の神様が篤く信奉され、社殿には数多くの絵馬が奉納されている。中でも「馬籍の図」(写真 43 参照)は三春領西北部の 26 村 880 余頭の飼育馬が描かれおり、これほど多くの馬が描かれている絵馬は県内でも珍しく貴重なものである。また、江戸時代に奉納されたとされている、額や絵馬に和算の問題や解法が記された算額も見学させていただいた。



写真 43 日渡神社の絵馬「馬籍の図」



[出典]田村市指定有形民俗文化財 絵馬「馬籍の図」(2面)(以下の URL 参照)より引用。  
<http://www.city.tamura.lg.jp/uploaded/attachment/14530.pdf>

●新館神社

[所在地]田村市船引町新館字軽井沢 1391

新館神社は、瀬川住民センターからもほど近く、国道 349 号線との合流近くの県道 50 号線沿いで、瀬川小学校の体育館脇の通りを北に入っていくとすぐの「新館多目的集会所」の隣に立地する(写真 44 参照)。

新館神社の本殿は左側の損傷が激しく、近寄らないように綱が張ってあった(写真 45 参照)。市の予算が下りず、修復することができずに、そのままになっているということで、以前はこの上で能新館の太々神楽を舞っていたが、今ではこの前の境内で神楽が行われているということである。屋根も瓦葺きで全体的に建物は古めかしい印象を受けた。

写真 44 新館神社の鳥居



写真 45 新館神社



●大倉神社

[所在地]田村市船引町大倉字上台

大倉神社は国道 349 号線の瀬川郵便局脇の道路を東に向かって入っていく。「大倉の太々



神楽」という標識を目印に入って行ってすぐのところにある(写真 46、47 参照)。境内には神楽殿があり(写真 48 参照)、大倉神社では、毎年 11 月の第一土曜日に大倉神社秋季例大祭が行われ、この神楽殿で「大倉の太々神楽」が奉納される。神楽は、田村市無形民俗文化財に指定されている。

写真 46 大倉神社の鳥居



写真 47 大倉神社



写真 48 大倉神社境内の神楽殿





●古室神社・王子神社

[所在地]田村市船引町門鹿宮林 156<sup>1</sup>

船引駅の方から国道 349 号線を北上していくと、田村市立美山小学校入口の次の道を東に入っていくところにあるが、神社の入り口は標識もなくわかりづらいが(写真 49 参照)、こちらは裏側から車で境内に上っていく裏道である。参道は反対の国道 349 号線側にある。写真 50 は、境内から参道を見下ろしたものである。車を下りて写真の入口から歩いて上がっていくと、王子神社、古室神社、神楽殿が立つ境内に出る。

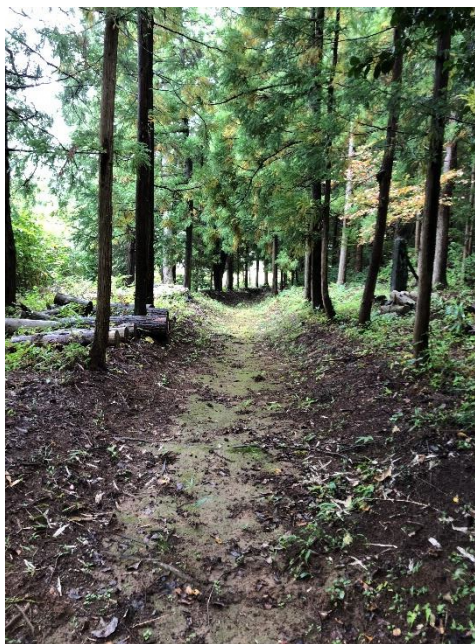
この王子神社には算額が奉納されており、これは 1839(天保 10)年夏に奉納されたもので、船引町内では最も古いものであり、田村市民俗文化財に指定されている(写真 51、52 参照)。

一方、古室神社では女性が子宝を願って、入り口に子供に見立てたお手玉をぶら下げるといふ風習があると伺った(写真 53、54 参照)。地区の参拝者だけではなく、市外から来られる人もお手玉ぶら下げていたようだが、最近はあまりやる人はいなくなってしまったということである。さらに、境内には「門鹿の太々神楽」が奉納される神楽殿と蔵がある(写真 55、56 参照)。

写真 49 古室神社・王子神社の裏の入り口



写真 50 古室神社・王子神社の参道



---

<sup>1</sup> 古室神社と王子神社については、瀬川小学校の「校長の自由研究⑦(古室神社と王子神社)」(以下の URL)にも紹介されている。

[https://tamura.fcs.ed.jp/blogs/blog\\_entries/view/492/d94d0d95a0d1edbc7203d77ea107d22c?frame\\_id=220](https://tamura.fcs.ed.jp/blogs/blog_entries/view/492/d94d0d95a0d1edbc7203d77ea107d22c?frame_id=220)



写真 51 王子神社



写真 52 王子神社に奉納されている算額の説明

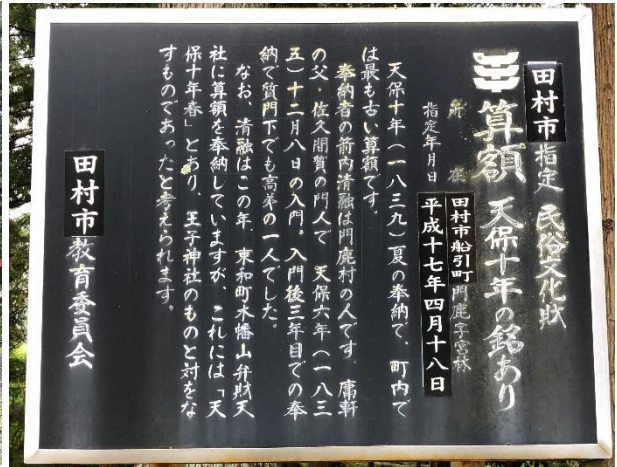


写真 53 古室神社



写真 54 古室神社の奉納されたお手玉



写真 55 「門鹿の太々神楽」が奉納される神楽殿



写真 56 境内にある蔵





新館神社のように修繕費が市からでないということで壊れたままになっている神社もあった。屋根の整備などは行われているところもあったが、観光客を誘致するには、さらに整備が必要となってくると思われる。

それぞれの神社にはさまざまな逸話があり、それらをどうアピールして、それをどう観光客の誘致につなげられるかが課題である。またそれぞれの神社を訪れることの価値がないと全体の集客は難しいと感じた。

以下の写真 57～62 は、2018 年の秋季例大祭に奉納されたそれぞれの神社の舞を田村市地域づくり推進員(専任集落支援員)の佐々木正和氏が撮影したものである。写真 57、58 は 11 月 3 日に奉納された「石沢の三匹獅子舞」であり、この舞は田村市無形民俗文化財に指定されている。「通りの舞」、「宿入れの舞」、「そぞろきの舞」、「花粋の舞」、「歌の切りの舞」、「しまいの舞」の 6 種目が行われ、所要時間としては 30 分に及ぶという。

写真 59 は、11 月 4 日に新館神社に奉納された「新館の太々神楽」であり、「浦安の舞」という演目が見て取れる。写真 60、61 は、11 月 3 日に奉納された「大倉の太々神楽」であり、この舞は田村市無形民俗文化財に指定されている。素面で舞う小神楽、面を用いて舞う大神楽の合わせて 36 座が伝承されている。

写真 57 「石沢の三匹獅子舞」の様(1)



写真 58 「石沢の三匹獅子舞」の様(2)



写真 59 「新館の太々神楽」の様



写真 60 大倉の太々神楽(1)



写真 61 大倉の太々神楽(2)



写真 62 は、11 月 3 日に古室神社・王子神社に奉納された「門鹿の太々神楽」である。「門鹿の太々神楽」は春・秋の例大祭に行われている。

写真 62 門鹿の太々神楽



## 5.2. 移ヶ岳の自然資源

田村市船引町石沢には、移ヶ岳という標高 994m の山がある。移ヶ岳は船引町の北東に位置し、片曾根山・高柴山・鎌倉岳・日山と共に「ふねひき五山」の一つに数えられる名山である。車で瑞峰平駐車場まで上がることができ、そこから登山口に入ることができる(写真 63、64 参照)。移ヶ岳には杉林の間をたくさんの沢が流下しており、我々が移ヶ岳を訪れた 9 月 30 日は台風 24 号が接近していた影響で雨が降ったり止んだりの天候だったため、豊富な水が流れていた(写真 65、66 参照)。沢には、黒い採水管が入っているところも見られたが、移ヶ岳の山麓では沢から引いた水で生活しているところもあると聞いた。この沢の水を



利用して、小水力発電を行えないかを検討した。水量自体は年間を通して十分にあるはずだと聞いたが、水利権を持っている住民の賛同と地域の合意を得られないと小水力発電は難しいということである。

写真 63 瑞峰平駐車場から移ヶ岳の眺め



写真 64 移ヶ岳登山道案内図



写真 65 移ヶ岳の杉林



写真 66 移ヶ岳の沢の豊富な水



昔は瀬川小学校の遠足で小学校から歩いてきて移ヶ岳に登ったというが、現在では移ヶ



岳の登山道はあまり使われておらず手入れがされていないということである。また、山頂付近も東日本大震災の影響で山が崩れたため、立ち入れなくなっているところがあるという。

次に、エコツアーの可能性についてまとめておく。移ヶ岳に車で登って行ったが、途中で牧畜を営んでいる農家があったり、桑畑が栽培されている畑があったりと、田村市の中でも多様な表現性が見られる興味深い場所である。また、登山道を整備し、ハイキングコースを設定すれば、エコツアーを行うことができるのではないかと思われた。

また、山の麓には、もりの案内人、樽井俊二氏が移ヶ岳の自然資源を伝える「里山林・自然塾」を開いている(写真 67 参照)。そこには、樽井氏が収集した、さまざまな植物が植えられて、さながら植物園を一人で管理していた。現在、小学生などを招き、自然資源を伝える活動を行っている。また、敷地内にある「やまゆり工房」では陶芸を習う地元住民を集めて陶芸教室も開催しているという(写真 68 参照)。今後、小学生だけでなく、現地の人をはじめ、さまざまな人を招き、講演などを行っていききたいと話してくださった。

写真 67 樽井俊二氏が主宰する林・自然塾



写真 68 やまゆり工房



### 5.3. エゴマ農家の現状とエゴマの今後の可能性

瀬川地区にはいくつかの特産物があるがその中でもエゴマ油が発祥の地として有名である。瀬川地区にエゴマ生産者は 15 軒ある。瀬川住民センターに隣接するエゴマ油の搾油所で、瀬川地区でエゴマを生産している橋本公一氏・恵子氏ご夫妻のエゴマ畑を視察した(写真 69、70 参照)。

エゴマは、手間を掛けずに栽培することができるが、収穫では、コンバインで収穫するとエゴマに傷がつき、酸化が進み品質が悪くなってしまうので、できるだけ手作業で収穫している。しかし、収穫の時期が 1 週間しかないため、収穫期の人手不足に直面していることと、生産者の高齢化によって大規模栽培は難しいのが現状である。

2018 年 11 月 18 日(日)、NHK 番組「うまいッ！」で「知ってる？最強食材 エゴマ(福島田村市)」が放送された<sup>2</sup>。そこでは、田村市の郷土料理「エゴマと小さいもの煮ころがし」が

<sup>2</sup> 番組で紹介した「エゴマ」についての問い合わせ先は、田村市役所産業部農林課(Tel:0247-81-

紹介され、エゴマ油には、必須脂肪酸の $\alpha$ -リノレン酸が多く含まれ、血中中性脂肪やコレステロールの改善効果、脳梗塞や心筋梗塞の予防、アレルギー疾患の改善などに効果が期待されていると紹介された。また、料理人の野崎洋光氏が最強食材と断言するエゴマ油とエゴマを使ったドレッシングも紹介された。さらに、エゴマには発がん性物質の抑制やダイエット効果もあるとされているため、健康食品として再ブームを期待できる。

実際に東日本大震災後に一時収穫が激減したが、その後 V 字回復して生産を増やしている。やはりこの番組でも、エゴマは傷がつくと酸化してしまい、さわやかな風味が損なわれてしまうため、農家の方が傷をつけないよう、1本1本手作業で丁寧に収穫を行っていた。短期間に収穫を終えないといけないので、郡山女子大の学生が収穫作業の手伝いに行っていた。今後は、この収穫時期の作業をどのように行うことができるかで、さらなる大量生産ができるかどうか掛かっている。このあたりに学生の支援のニーズがあるように思われた。

写真 69 エゴマ畑の視察(1)



写真 70 エゴマ畑の視察(2)



## 6. 次年度以降に向けた企画提案

### 6.1. 「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の継続開催と定例化に関する提案

ここでは、「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」、「木工ワークショップ」、コミュニティカフェ「喫茶セガワ」の3つについて次年度に向けた提案をまとめておく。

図表 21 提案①「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の継続開催と定例化に関する提案

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「瀬川住民センター」で、「新そば収穫祭&amp;軽トラマルシェ」を継続開催して、定期開催を目指す。新そばの時期でない時にはどうするか検討する。</li> <li>・軽トラマルシェでは農作物だけではなく、食品や軽食なども一緒に出品す</li> </ul>
-------	--

2511)。番組についてはNHK番組「うまいっ！」ホームページ(以下のURL)を参照されたい。<http://www6.nhk.or.jp/umai/archive/archive.html?fid=297>



	<p>ることも検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木工ワークショップの開催については、マルシェ木箱の必要性の有無を判断して、開催するかどうかを決める。</li> <li>・コミュニティカフェ「喫茶セガワ」も同時開催していく。</li> </ul>
期待される効果	<p>地区の住民と外部の人も含めて多くの人を訪れ、そこで交流が生まれ、地元産のものを購入することにより、お金が地区に落ちて、地区の経済循環を促す。</p>
具体的な企画案	<p>瀬川住民センターで開催する。</p> <p>客を呼び込む仕組みづくりとして、地区の回覧板の有効活用とか、当日会場入り口に大きな立て看板を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同時開催イベントして、何かできることはあるか、検討していく。</li> </ul>

まず「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」については、次年度以降も継続開催をしていくことで一致しているが、定期開催するために新そばの季節以外に開催できるかを検討し、ざるそば、食品や軽食などを一緒に出品していくことも検討していきたい。また、来場者の増加のために、広報活動にも力を入れていきたい。

次に、木工ワークショップに関しては、軽トラマルシェで使用するマルシェ木箱を1台の軽トラ当たり4箱×軽トラ10台=40箱を製作した。しかし、実際に製作してみると、軽トラの荷台には6箱のマルシェ木箱が載ることがわかった。不足分のマルシェ木箱を製作し、マルシェ木箱用傾斜台を製作することはできるかもしれないし、軽トラマルシェに参加する軽トラが増えれば、マルシェ木箱が足りなくなることもある。そうなれば、マルシェ木箱製作のための木工ワークショップを再び開催することもありえる。

その他に、木箱にデザインを加えたり、木工品のバリエーションを増やして、風呂場のイスなど実用性のあるものを製作したらどうかという意見も出された。これは、軽トラマルシェ開催に向けたマルシェ木箱製作という目的とは別に、賑わいを創出するという目的で実施することも検討していきたいという提案と考えてよいかもしれない。

また、駐車場の入り口に看板を立てるなどして開催していることをアピールできると目に留まりやすいという意見も出された。

最後にコミュニティカフェ「喫茶セガワ」については、これも定期開催を目指していきたい。独立採算に持っていくためには、事前にメニューや価格設定を綿密に計画したり、仕入れ値をもっと抑えなくてはいけない。また、大勢の来場者に対応できるように注文した順番が分かるように番号札を準備したり、正面玄関に受付を置いたりしてはどうかと考えた。今回のこのような反省点を次回に活かして、定期開催を目指していきたい。

## 6.2. 獨協大学における物産展開催に関する新たな提案

次年度も今年度と同様に、6月と12月に開催される「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」において、「福島県集落復興支援物産展」を開催していきたい。

今年度は、米山チームは地元農家から野菜の調達が難しかったために、予定していた本学学園祭「雄飛祭」の出店は見送った。南会津町耻風の大竹チームと喜多方市本村地区の大坪チームは雄飛祭にも出店して多くの来場者を集めていたので、雄飛祭への出店は検討していきたい。物産展では、瀬川地区の野菜、エゴマを販売したり、エゴマの通信販売も行うことを検討していきたい。

来年度以降も継続して開催していくことで、より瀬川地区を知ってもらうことはもちろん、地域交流が盛んな大学であることをアピールしていきたい。しかしながら、物産展にはたくさん来場者が買い物に来てくれるが、うまく継続購入につながらず、単発的な効果しかもたないようにも思われる。今後は物産展での購入客に継続的な農産物の購入につなげてもらえるような策を検討する。

図表 22 提案② 獨協大学学園祭等における瀬川産の農産物の販促活動

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」などにおいて、瀬川産の農産物を販売する。</li> <li>・次年度は開催日を増やす。</li> <li>・「獨協大学前」駅から松原団地記念公園までのメインストリートで開催できないか検討する。</li> <li>・壁新聞を読んでもらえるように工夫する。</li> <li>・商品価値の高いエゴマの通信販売を行う。</li> </ul>
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬川地区の珍しい農産物や特産品のエゴマについて認知してもらうことを通じて、田村市船引町瀬川地区について知ってもらう。</li> <li>・瀬川地区の農産物だけでなく、福島県下の農産物の安心・安全を訴えていく。</li> </ul>
具体的な企画案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際環境経済学科・環境共生研究所共催で毎年6月と12月に開催している「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」において瀬川産農産物の販促活動を行うことで学生、教職員、草加住民にもっと関心を持ってもらう。</li> <li>・エゴマの効能についてわかりやすく伝えたり、珍しい野菜の試食販売を行うことで、新規需要を開拓する。</li> <li>・エゴマや野菜を定期購入してもらえるような仕組みを検討する。</li> </ul>

### 6.3.瀬川住民センター裏の空き地(市の所有地)と隣接する空き家の有効活用に関する提案

瀬川住民センターの西隣には空き家があり、裏の北側には空き地が広がっている(写真 71 参照)。地面は整備されておらず、今は何にも使われていないのが現状である。そこで次年度からは、この土地を有効に活用していきたい。

図表 23 提案③ 瀬川住民センター裏の空き地(市の所有地)と隣接する空き家の有効活用に関する提案

<p>提案の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬川住民センター隣の空き家をリノベーションして、「やってみっ会」事務所、コミュニティカフェ、宿泊所として使用したらどうか。</li> <li>・瀬川住民センター裏の空き地を整備し、子供の遊び場、フラワーパークなどにしたらどうか。フラワーパークは子供が遊べるよう整備し、花でモニュメントをつくる。</li> </ul>
<p>期待される効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家のリノベーションによる有効活用策は、瀬川住民センターの近くに事務所を設けることで、そこで行われるイベントの企画、準備、開催をよりスムーズに行うことができるのではないかと考える。また、定期開催も以前より容易になるのではないかと考える。</li> <li>・空き地の有効活用案については、瀬川地区の子供のいる家庭からは、子供の遊び場が不足しているという意見も問題点として挙がっているので、空き地を公園などの子供が遊べるような場にすればその解決になるのではないだろうか。</li> </ul>
<p>具体的な提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家をリノベーションし水道、電気を通るようにし、そこに事務所を設立する。そしてそこを拠点とし、「やってみっ会」のイベントを開催する。</li> <li>・コミュニティカフェを開いたり、宿泊所として利用できるようにし、集客を測るのもよいかもしれない。</li> <li>・空き地を整備し、芝生を植えて公園を作る。また、花を植えてフラワーパークにするという提案も挙がっている。</li> </ul>
<p>参考にした事例</p>	<p>「福島県空き家・ふるさと復興支援事業」  <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41065b/akiyafurusato.html">https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41065b/akiyafurusato.html</a></p>

写真 71 瀬川住民センターの西側の空き家と北側の空き地



#### 6.4. エゴマの収穫時期の援農ボランティアの提案

9月29、30日の実態調査では、橋本公一氏ご夫婦が栽培しているエゴマ畑を視察させていただいた。その中で、エゴマの栽培は比較的簡単に行うことができるが、エゴマの収穫時に手作業で行わなければならない、多くの手間がかかる一方、人手が不足しているというお話をお聞きした。



そこで、エゴマの収穫時に援農ボランティアとして現地に入り、作業を手伝うことができれば、エゴマ農家の支援ができるのではないかと考えた。

図表 24 提案④ エゴマの収穫時期の援農ボランティアの提案

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>エゴマの収穫時の手作業を学生が援農ボランティアに入る。</li> <li>作付面積を増やすことの障害になっている収穫時に人手不足を解消することで、収穫時以外は栽培が簡単なエゴマの作付面積を増やすことを可能にする。</li> </ul>
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>エゴマの収量を増やすことができる。</li> <li>エゴマ農家の方と大学生が交流することで、エゴマの効能や食べ方について若者に継承できる。</li> </ul>
具体的な企画案	<ul style="list-style-type: none"> <li>エゴマ農家にアンケートを実施し、学生の援農ボランティアをいつ、どれくらいの規模で必要としているかを調査する。</li> <li>米山チームとして援農に行くことができるか、あるいは本学の一般学生から募集して、援農に出掛ける体制を作る。</li> <li>交通費と宿泊費をどこから支出できるか検討する。</li> </ul>

#### 6.5. 大学もしくは草加市における「そば打ち同好会」結成の提案

9月29日に、やってみっ会のそば打ち勉強会に参加した3人のメンバーは、はじめてのそば打ちを経験した(写真 72~74 参照)。そば粉の状態から食べられる状態まで一通りを体験し、自分で打ったそばを堪能して、そば打ちの魅力を感じることができた。

そこから、獨協大学内に「そば打ち同好会」を設立し、学生のみならず、教職員もメンバーに勧誘して、そば打ちの手技を向上させるサークルを立ち上げるという提案が出てきた。あるいは、草加市内で「そば打ち同好会」を立ち上げてもおもしろいかもしれない。このようにして、そば打ち人口を増やすことができれば、そばの消費量増加につながることを期待できる。

それによって、瀬川地区だけでなく、福島県の他の地域のそば粉の新たな需要を創出することができるのに加えて、そば打ちの指導にやってみっ会から講師を派遣してもらうことで、地元との交流にもなるのではないかと考えている。そばの作付けからそば打ちまで、そば全工程を行うことで、そば作りの収入増加につながっていくと期待させる。

図表 25 提案⑤ 大学もしくは草加市における「そば打ち同好会」結成の提案

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>獨協大学内に「そば打ち同好会」を設立し、学生のみならず、教職員もメンバーに勧誘して、そば打ちの手技を向上させるサークルを立ち上げる。</li> <li>「そば打ち同好会」に地元からそば打ちの講師を派遣してもらう。</li> </ul>
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>そば打ち人口を増やすことができれば、そばの消費量増加につながることを期待できる。</li> <li>それによって、瀬川地区だけでなく、福島県の他の地域のそば粉の新たな</li> </ul>

	<p>需要を創出することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そば打ちの講師の派遣によって、地元との交流を進めることができる。</li> </ul>
具体的な企画案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大竹チームの南会津町耻風、大坪チームの喜多方市本村地区では、いずれもそばが特産品となっているので、連携して学内に「そば打ち同好会」を結成するのがよいと考える。</li> <li>・そば打ちの道具を揃え保管したり、そばを打って、茹でて、食べることが学内で可能かどうか検討が必要。</li> </ul>

写真 72 そば打ち勉強会の模様(1)



写真 73 そば打ち勉強会の模様(2)



写真 74 そば打ち勉強会の模様(3)



#### 6.6. 瀬川地区の伝統芸能活性化のための広報に関する提案

地域資源として、瀬川地区にはかなりたくさん遺跡、伝説、神社仏閣などが存在しているので、これらを観光資源として活用していきたい。とくに、瀬川地区の石沢、新館、大倉、門鹿にはそれぞれ神社に奉納される伝統芸能がある。地元では保存会の方々が、神楽を舞う小学生を指導しているが、小学生も少なくなって、維持が課題になっている。4つの行政区に、それぞれ神楽もしくは三匹獅子舞といった伝統芸能が残っているのは、とても貴重な地

域資源であり、これらを観光資源としてぜひ活用していくことを考えるべきである。

そこで、瀬川地区の伝統芸能について、その文化的価値について調査を行って、その上で広報に関する提案を行っていききたい。

図表 26 提案⑥ 瀬川地区の伝統芸能活性化のための広報に関する提案

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度には秋の例大祭に参加して、自分たちで伝統芸能について取材する。</li> <li>・その上で、秋の例大祭で、全地区の伝統芸能を観て回る伝統芸能鑑賞ツアーを企画したい。</li> </ul>
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能の価値と魅力を広報で伝えることで、観光客の集客につなげたい。</li> <li>・注目されるようになることで、地元住民のプライドを高めて、伝統芸能の継承していくモチベーションを高めることができる。子供たちに伝統芸能を継承することを誇りに感じられるようになる。</li> <li>・伝統芸能が重要な地域資源であるとみんなが認識するようになれば、神社仏閣の修理・保存に予算支出してもらえるようになるかもしれない。</li> </ul>
具体的な企画案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能を取材し、広報のためのポスターを制作し、駅やお店に貼らせてもらう。</li> <li>・田村市全域で同時企画として伝統芸能鑑賞ツアーを打ち上げた方が集客力があるかもしれない。</li> <li>・観光客に資金を落としてもらえるような仕組みを考えて、伝統芸能を観に来ることが地元の収入増につながるような仕組みを考えなければならない。</li> </ul>
参考にした事例	<p>高千穂町観光協会（以下の URL 参照）  <a href="http://takachiho-kanko.info/kagura/">http://takachiho-kanko.info/kagura/</a>          山代白羽観光協会（以下の URL 参照）  <a href="http://www.sea.icn-tv.ne.jp/~shiraha/index.html">http://www.sea.icn-tv.ne.jp/~shiraha/index.html</a></p>

田村市内には、図表 27 を見ると、市の無形民俗文化財に指定されている三匹獅子舞だけでも、「田子屋の三匹獅子舞」「入三洞の三匹獅子舞」、「栗出の三匹獅子舞」、「岩井沢の三匹獅子舞」、「子松の三匹獅子舞」、「石森の三匹獅子舞」、「光大寺の三匹獅子舞」がある。これ以外にも脚注には「遠山沢の三匹獅子舞」、「荒和田の三匹獅子舞」、「今泉の三匹獅子舞」があることが記されている。その他、太々神楽、神楽獅子舞もたくさん存在している。これをど民俗芸能がたくさん残っているのは稀有と言ってもよいだろう。この屈指の伝統芸能を誇る田村市が田村市全域で無形民俗文化財を広報していくことは十分に可能性があるだろう。

また、門鹿の太々神楽は、明治安田クオリティオブライフ文化財団から「地域の伝統文化保存維持費用助成」支援を受けているが(写真 75 参照)、企業に CSR 活動として田村市の伝統芸能保存に協力してもらうという可能性もあるのではないだろうか。このような資金協力につなげていくためにも、伝統芸能の文化的背景や価値をしっかりと伝えていく努力が



必要になってくるだろう。

図表 27 田村市指定無形民俗文化財一覧

番号	民俗芸能等の名称	奉納期日及び場所	所在地
1	田子屋の三匹獅子舞	11月3日 田子屋稻荷神社	大越町下大越字宮山
2	入三洞の三匹獅子舞	11月3日 入ノ作稻荷神社	大越町下大越字入ノ作
3	牧野の神楽獅子舞	5月5日 牧野見渡神社 10月中旬 牧野見渡神社	大越町牧野字堀ノ内
4	栗出の神楽獅子舞	4月中旬 栗出見渡神社 旧暦8月15日に近い日曜日 栗出八坂日枝神社 11月3日 栗出見渡神社	大越町栗出字宮ノ下 外
5	栗出の三匹獅子舞	4月中旬 栗出見渡神社 旧暦8月15日に近い日曜日 栗出八坂日枝神社 11月3日 栗出見渡神社	大越町栗出字宮ノ下 外
6	戸ノ内の神楽獅子舞	旧暦8月15日 戸ノ内八幡神社 1月1日 戸ノ内八幡神社	大越町下大越字戸ノ内
7	岩井沢の三匹獅子舞	10月最終日曜日 岩井沢天日鷲神社	都路町岩井沢字平地
8	山根の太々神楽	4月29日 鎌倉公園 10月下旬 山根天日鷲神社	常葉町山根字宮ノ前 外
9	子松の三匹獅子舞	3月28日 秋葉神社 10月中旬 子松神社	常葉町常葉字中町
10	大鎗矢神社の夫婦獅子舞	12月31日から1月1日 大鎗矢神社 1月3日 各氏子宅など	船引町東部台 外
11	石森の三匹獅子舞	11月3日 石森鹿島神社	船引町石森字屋戸
12	石沢の三匹獅子舞	11月3日 石沢 鹿島、熊野神社	船引町石沢字東宮久保
13	光大寺の三匹獅子舞	4月8日に近い日曜日 光大寺東方薬師堂 旧暦8月8日に近い日曜日 光大寺東方薬師堂	船引町声沢字光大寺
14	大倉の太々神楽	11月第1土曜日 大倉神社	船引町大倉字上台
15	芦沢の八ツ頭獅子舞	4月第3日曜日 芦沢白山ヒメ神社 11月3日 芦沢白山ヒメ神社	船引町芦沢字上屋形
16	畑中の大神楽	1月1日 菅谷神社	滝根町菅谷字畑中

※「大鎗矢神社の夫婦獅子舞」、「石森の三匹獅子舞」、「石沢の三匹獅子舞」、「光大寺の三匹獅子舞」、「大倉の太々神楽」、「芦沢の八ツ頭獅子舞」、「畑中の大神楽」、「遠山沢の三匹獅子舞」、「戸ノ内の神楽獅子舞」、「荒和田の三匹獅子舞」、「牧野の神楽獅子舞」、「今泉の三匹獅子舞」、「子松の三匹獅子舞」、「栗出の神楽獅子舞」、「門鹿の太々神楽」、「山根の太々神楽」、「田子屋の三匹獅子舞」、「新館の太々神楽」については映像で記録しています。

[出典]田村市ホームページ「田村市指定無形民俗文化財」(以下の URL)参照

<http://www.city.tamura.lg.jp/soshiki/30/minzoku-geino.html>

写真 75 門鹿の太々神楽への「地域の伝統文化保存維持費用助成」



瀬川地区の伝統芸能活性化に向けた広報の提案をするにあたり、いくつかの成功した事例が参考になる。1つ目は、宮崎県高千穂町である。この町には高千穂神楽という国の重要無形文化財がある。1年間 365 日毎晩神楽があり、観光客を楽しませている。この神楽を見るには、料金がかかり、高千穂町を支える重要な観光資源だと考える。この高千穂町は、駅からレンタカーやバスを使うことなどからもわかるように、瀬川地区と同じよう

にアクセスが良いとは言えない。しかし、1日に2本の特急バスや、1日に4本の高速バスを導入することによって、観光客が訪れやすい環境をつくっている。

2つ目は山口県の山城白羽神楽と北中山神楽である。この2つの神楽は、地域交流を兼ねて子供達に神楽を教え、伝承している。そして、さまざまな大会やイベントに参加して実績を残している。

これらの事例を見てみると、どちらの地域も、美しい自然や祭り、その地域に住む人々など、自分たちの地域にあるものを活用して地域活性化を行っている。したがって、瀬川地区も、瀬川地区が誇る自然や神楽、人々を活用して観光を活性化できると考える。

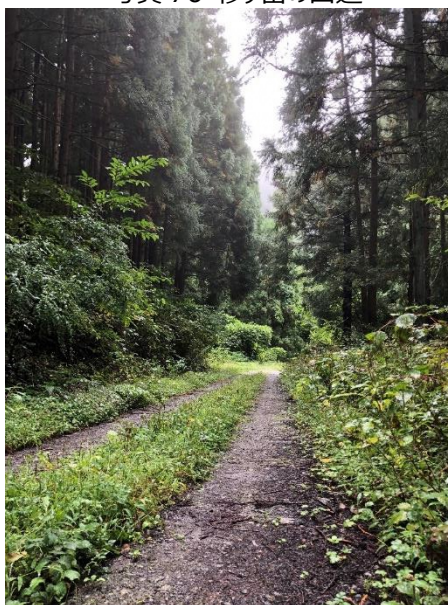
広報活動としては、私たち大学生自身が瀬川地区の神楽や自然を体験して、魅力的なところを見つけ、ポスターを作成し、駅やお店などに貼らせていただき、伝統芸能の文化的価値をPRしていく。

#### 6.7. 移ヶ岳の小水力発電の可能性調査とエコツーリズムに関する提案

小水力発電とは小規模な水力発電であり、自然環境への負荷が少なく、少ない出費で行うことができる。それらに適した場所は山間部の沢などの、ある一定の落差と流量がある環境が好まれる。現在、移ヶ岳にはたくさんの沢がある。そのため、それらを利用して自然エネルギーを活用したいと考えている。またそれによって、町で使用する電力を賄いたい。

また、エコツーリズムについて、地元の方々に協力していただいて、起伏に富む瀬川地区の魅力を堪能できるエコツアーを実施し、瀬川の魅力を知ってもらいたい。具体的には、移ヶ岳の山道をはじめとした、瀬川地区の地形を生かしたハイキングコースを設定する(写真76参照)。たとえば、牧場での乳しぼり体験や蜂蜜採集体験など、農業体験や、「里山林・自然塾」に招き、自然の魅力について知っていただく、などである。

写真 76 移ヶ岳の山道



## 6.8. 田村市全域との広域連携を視野に入れた提案

今回の「第1回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」には、田村市長本田仁一市長が来場されて、そばを召し上がって、喫茶セガワでコーヒーを飲まれて、木工ワークショップでマルシェ木箱を作り、そして軽トラマルシェでたくさんの野菜を購入してくださった。

また、同日、田村市では「タウンシップレース福島県@田村市」が開催された。タウンシップレースとは、4名を1チームとし、主催者から配られた地図をもとに、エリア内に多数設置されたチェックポイントを、スタンプラリーの要領で制限時間内にまわり、得られたポイントの合計点数を競うスポーツである。

そのポイントに、瀬川住民センターの「第1回新そば収穫祭&軽トラマルシェ」を登録していただいていたので、2, 3チームの選手も来場してそばを食べに来てくれた(写真 77、78 参照)。田村市の方で、今回のイベントをタウンシップレースのポイントに設定してくださったことは、大変有難かった。このように、田村市との連携を行うことで、外部からの誘客の可能性は非常に大きくなることがわかる。今後も田村市全域でのイベント開催も視野に入れて、その中で瀬川地区を盛り上げられるようなイベントを考えていきたい。

写真 77 タウンシップレースのチーム(1)



写真 78 タウンシップレースのチーム(2)



## 7. おわりに

今回、私たち獨協大学地域活性化プロジェクト米山チームは、昨年度とメンバーの入れ替えがありながらも、メンバー10人が集まり協力して活動を行うことができた。

今年度米山チームは、11月11日(日)に瀬川住民センターで開催された「第1回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」関連の支援と、6月と12月に開催された「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」への福島県集落復興支援物産展の出店の2つの企画について実証実験を行った。

前者に関して、「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の企画運営、軽トラマルシェで使用するマルシェ木箱製作のための木工ワークショップの運営、コミュニティカフェ「喫茶セガワ」の運営の3つの活動を行うため、11月10、11日にはメンバー全員で「新そば収穫祭&軽ト



ラマルシェ」開催支援のため現地入りした。今回初めて瀬川地区を訪れるメンバーも少なくなかったが、船引駅より瀬川地区の方々に送迎していただき、瀬川住民センターでのミーティングの後、郷土料理や豚汁などほっとするような温かい食事で歓迎していただき、打ち解けることができ、11日の本番に向けて地元住民の皆さんと一致団結して取り組むことができた。また、宿泊先の田村市滝根町「老人憩の家針湯荘」まで、佐々木様と松本代表区長に送迎していただいた。

さらに、9月29、30日の現地訪問に際しては、盛大に交流会も行っていただき、橋本様、佐々木様の厚意でご自宅に泊めていただいた。交流会だけでなく、そのあとも夜遅くまでお話をさせていただいて、交流を深めることができたのは、とても貴重な体験であった。

今年度も昨年度に引き続き、「やってみっ会」の皆さんをはじめ、「結いの会」、「瀬川地域づくり協議会」など、田村市船引町瀬川地区の活性化に取り組まれている皆さんと一緒に活動させていただいたことに心より感謝を申し上げたい。

私たちが地域の皆さんのためにお役に立てるよう、一生懸命活動させていただいているのはもちろんですが、地域の皆さんが私たちを一人前の大人としてして接して下さることで、私たちもこの活動に取り組むことで、大きく成長できていることが実感できました。

今年度の活動を次年度以降に継続していく際に、次回イベントを開催する場合は外部にも届くよう広報活動に一層力を入れてきたい。また、今年度できなかった、瀬川住民センター裏の空き地の有効利用についても、次年度には実証実験ができるように準備を進めていきたい。住民の皆さんの活動をサポートしつつ、自分たちが考える地域復興の方法を提案し実行していければ良いと思う。2019年度の活動は、今年度以上のものに創っていけるよう、メンバー一同励んでいきたい。

最後に、今年度実証実験をするにあたり「大学生の力を活用した集落復興支援事業」の運営事務局となっている福島県地域振興課の皆様、田村市協働まちづくり課の職員の皆様、そして田村市瀬川出張所田村市地域づくり推進員の佐々木様、瀬川地区代表区長の松本様をはじめとして、多くの方々にご協力いただいた。お世話になった多くの方々に、厚く御礼申し上げます。

写真 79 「第 1 回 新そば収穫祭 & 軽トラマルシェ」開催の記念撮影

